

「ようし、もう一度やり直した。」

と思いたち、総が再び内田産業株式会社を設立したのは、昭和二十一年一月のことです。

そのころは、まだ、戦争の痛手があちこちに見られ、交通機関もなかなか普及しないうえに、原料も外国から輸入できるのはほんの少しだったので、手にいれるのに苦勞しました。

また、「真剣な気持ちで自分の腕をみがこう。会社のためにがんばろう。」という気持ちの人たちが集まらず、この点でも大変でした。

そのうえ、仕事がうまくいかないうちから従業員や役員に給料やボーナスをきちんと支払わなければならなかったので、お金のやりくりで苦勞しました。

お金のやりくりの一つの方法として、総は「私は仕事はうまく行くまでは給料はいらない。」と心にきめ、五年間は一円も給料を自分に当てませんでした。こういう中で、まず、従業員を第一級の技術者にしようと努力しました。